

科目名	表計算演習			ナンバリング	ICT231	授業形態	演習
対象学年	2 年	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	1 単位
代表教員	高橋義考	担当教員	高橋義考、中尾 剛				

授業の概要	表計算処理は心理学や社会調査などで調査結果を整理分析するために広く利用されている。この授業では表計算ソフトウェアを用いてグラフの作成、データ処理、データ分析を行う技術の習得を目的とする。さらに、資格取得に必要な表計算ソフトウェアの操作手順、関数の利用方法の習得を目標とする。						
到達目標	1. 表計算ソフトウェアの機能について説明することができる 2. 表計算ソフトウェアの作表方法を説明することができる 3. 表計算ソフトウェアの関数利用方法を説明することができる						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	コンピュータの基本操作を習得しておくことが望ましい。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
		4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
表計算ソフトウェアによりデータ処理することができる。 表計算ソフトウェアのグラフ作成機能を用いてデータをグラフ化できる。	1. 表計算ソフトウェアのワークシート設定について説明することができる。 2. 表計算ソフトウェアのデータ処理機能について説明することができる。また、各機能を正しく使い表計算処理することができる。 3. 表計算ソフトウェアのグラフ作成機能について説明することができる。また、グラフ要素の詳細設定をすることができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○			○		100%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加			○	○			加点はしない。欠席は減点対象となる。

課題、評価のフィードバック	1. 演習に関する疑問や感想などについては、次回の授業でコメントする。 2. 提出されたレポートについては、評価基準と解答例を示す。
---------------	---

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	表計算とは(高橋、中尾)	表計算の機能と役割について解説する。	
	第2回	ワークシートの作成(高橋)	ソフトウェアの該当する利用方法について解説し、演習を行う。	
	第3回	ワークシートの管理(高橋)	ソフトウェアの該当する利用方法について解説し、演習を行う。	
	第4回	データ挿入と置換方法(高橋)	ソフトウェアの該当する利用方法について解説し、演習を行う。	
	第5回	セル範囲の書式設定(高橋)	ソフトウェアの該当する利用方法について解説し、演習を行う。	
	第6回	テーブルのレコード抽出(高橋)	ソフトウェアの該当する利用方法について解説し、演習を行う。	
	第7回	データの並べ替え(高橋)	ソフトウェアの該当する利用方法について解説し、演習を行う。	
	第8回	データの相対参照と絶対参照(高橋)	ソフトウェアの該当する利用方法について解説し、演習を行う。	
	第9回	関数の利用(高橋)	ソフトウェアの該当する利用方法について解説し、演習を行う。	
	第10回	条件付き論理関数(高橋、中尾)	ソフトウェアの該当する利用方法について解説し、演習を行う。	
	第11回	文字列操作関数(高橋、中尾)	ソフトウェアの該当する利用方法について解説し、演習を行う。	
	第12回	統計用の関数(高橋、中尾)	ソフトウェアの該当する利用方法について解説し、演習を行う。	
	第13回	グラフのスタイル設定(高橋、中尾)	ソフトウェアの該当する利用方法について解説し、演習を行う。	
	第14回	グラフのデータ範囲変更(高橋、中尾)	ソフトウェアの該当する利用方法について解説し、演習を行う。	
	第15回	まとめ(高橋、中尾)	授業全体の内容を振り返り、レポートを作成する。	
	試験	試験は実施しない		
授業の進め方		授業はコンピュータ演習室で行う。表計算用のソフトウェアの機能説明を行ったあと、演習を行う。		
授業外学習の指示		授業で学んだ内容を整理し、まとめておくこと。 出題された課題は、授業外学習として独自に再度行い、コンピュータの各技術を身に着けること。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	配付資料に従って、演習を進めてゆく。
参考書	「よくわかるマスターMOS Excel 2013 対策テキスト&問題集 改定版」, FOM出版 , ISBN 978-4-86510-224-6 , 2160円.
参考URLなど	
その他	

ループリック「表計算演習」

評価規準 項目／観点		レベル高 ← 評価基準 → レベル低		
		レベル3（模範的、理想的）	レベル2（標準、合格）	レベル1（要改善、不合格）
1	ワークシートの設定	提出された課題が条件（テーマ、情報量など）を満たし、表計算ソフトウェアのワークシートについて、詳細なオプション設定ができる。	提出された課題が条件（テーマ、情報量など）を満たしている。表計算ソフトウェアのワークシート設定ができる。	課題の提出がない、もしくは課題の条件（内容、情報量など）を満たしていない。
2	データ処理	提出された課題が条件（テーマ、情報量など）を満たし、表計算ソフトウェアのデータ処理について、詳細なオプション設定ができる。	提出された課題が条件（テーマ、情報量など）を満たしている。表計算ソフトウェアのデータ処理ができる。	課題の提出がない、もしくは課題の条件（内容、情報量など）を満たしていない。
3	グラフ設定	提出された課題が条件（テーマ、情報量など）を満たし、表データからグラフ作成ができる。また、グラフの詳細なオプション設定ができる。	提出された課題が条件（テーマ、情報量など）を満たしている。表データからグラフ作成ができる。	課題の提出がない、もしくは課題の条件（内容、情報量など）を満たしていない。
4				
5				
6				
7				